



2023. 2. 25

No.233

編集・発行人 樋口みな子

E-mail

minginga@agate.plala.or.jp

URL <http://www13.plala.or.jp/minginga/>

郵便振替「銀河通信」

02740-7-56535

(郵送年間2,000円)

差別や困難に直面している人々の思いを 伝えたい 『銀河通信』が35周年になります



2023. 2. 14 午前6時半の朝日（江別は-17℃の厳しい寒さでした）

年が明けて初めての通信です。早2ヵ月が過ぎました。みなさまはお元気ですか？今年の7月で「銀河通信」が35周年になります。

「環境と平和と人権を伝えて」といつも書いてきましたが、やむをえない事情で市民運動から遠ざかっています。

夫が脳の病気で手術を受けて退院まで8ヶ月かかりました。その後自宅に戻りましたが介護生活が始まりました。このことはあまり予測できませんでした。一見普通に見えるのに術後に記憶障害になり、10年ぐらいの記憶が吹き飛びました。でも幸いなことに、穏やかにユーモアがある人間性は失っていません。時々笑い合うこともあります。でも時間の感覚がなく、深夜に何度もトイレに起きるので、私は転倒が心配で必ず見守ります。実はベッドから何度もずり落ちているからです。骨折したら大変です。

大きな改善は望めなくても、週3回のデイサービスと自宅介護で、穏やかに過ごせることと、好きな天文観測ができることだけを願っています。江別にはかかりつけ医院がありません。ケアマネージャーさんの情報もまったくなく、母がお世話になっている施設に電話して、同じ介護支援センターの方が決まりました。

夫のことを書くのは躊躇しました。でも最近では新聞でも、自分の病気を公表して自分らしく生きる人たち -1-

が増えて話しやすくなりました。退院してから3度の入退院を繰り返しました。9月は肺炎で、12月には術後の経過を見るために北区の病院で検査入院。1月に誤嚥性肺炎で。このままでいいのだろうかと不安になりました。自宅で何かあっても対処できません。医療の相談が出来ないかと、友人や、市役所などに相談してようやく医療現場の経験がある保健師だったケアマネージャーさんとなることができました。訪問医療も受けるようになり私の心も安定しました。

市民運動を伝えられないけれど、今の医療や福祉、教育に目が行くようになりました。

病気があっても障害があっても、地域で安心して暮らしたい。戦争になったら一番最初に犠牲になるのは、弱い立場の人たちだと思います。そんな思いを見出しに込めました。

5月20日(土)に「銀河通信」35周年を祝う会を実行委員会のみなさんが中心になって開いてくださいます。どうぞご参加ください。遠方のかたはメッセージだけでもお寄せいただくと嬉しいです。

2月のキリバリ 岸田政権関連の論評などから

バケツリレーと安保3文書一意味のない訓練をやる意味

三上 智恵(映画監督) 沖縄撮影日記 第114回
2023年2月1日 マガジン9

◆昨年11月末、沖縄県最西端の島・与那国島の「島民避難訓練」の映像が繰り返し全国ニュースで流れた。/たったの20人しか参加しない田舎町の避難訓練が、なぜ全国ネットになるのか。それは、ミサイルの飛来を想定した訓練であり、最近実際に近くにミサイルが飛んできた島であり、「台湾有事」に最も近い島の訓練というイメージがあるからだ。が、映っているのは、コンクリートの公民館に逃げ込んで、窓のない部屋で頭を抱えるだけの間の抜けた姿。誰が見ても、こんなことでミサイルから身を守れるのか？と目が点になるような映像だ。しかし各局が大真面目に、ニュースもワイドショー含めて繰り返しそれを流したさまを見て、「こうやって利用されていくんだな」と私は苦い悔しさの

ようなものを抑えきれなかった。「/「国境の島は大変不安だろう」「いよいよ迫ってきたのか。国防をしっかりとしないと」「これは軍事費を渋っている場合ではない。増税もやむを得ない」 ◆このような映像を見せられれば、視聴者の関心はどうしても国防に向けられる。危機を煽れば煽るほど軍拡増税のハードルは下がっていく。私はその時期東京にいたのだが、与那国の映像がテレビに映し出されるたびに、軍事費が「チャリン、チャリン」と投げ入れられていく感じがした。昨年盛んに特集された、与那国の漁師たちの映像もそうだ。「操業海域近くにミサイルが落ちた」/「逃げる場所もない。シェルターも必要では」 漁協を取材しこんなセリフを引き出す「危機にある国境の島」的な企画も同じだ。スタジオではキャスターが「彼らが安心して漁に出られる、そういう国防でなければなりません」などと付け加える。◆危機が煽られれば視聴者は軍備増強することも、日米同盟や中国包囲網を構築することも、好ましく思うようになる。しかし、戦争する国に国民を誘導する、そのアイコンのように与那国島を使うのは勘弁してほしい。島の豊かな文化や生活を描くことなく、国防に翻弄される姿だけ切り取って利用するのはやめてほしい。悶々としながら沖縄に戻ると、安保3文書が出揃い、閣議決定へとあれよあれよと進んでいった12月。この国は今まさに、振り落とされそうな勢いで軍国主義へと突き進んでいる。◆それが南西諸島にどう影響するか、安保3文書の閣議決定の内容を整理しておこう。*「GDP比2%」を目指して5年で防衛費を倍増⇒世界第3位の軍事国家に。*敵基地攻撃能力を持つ。敵基地に届く巡航ミサイルのトマホークと、自衛隊の「12式地对艦ミサイル」の飛距離を伸ばしたものは主に南西諸島に置かれる⇒専守防衛国家をやめたも同じ。*「日本が主たる責任を持って対処」「同盟国・同志国と連携して現状変更を阻止」と明記⇒仮に米軍やNATOが不在でも、日本人が日本の国土で戦う覚悟を国際社会に宣言。「最大の戦略的挑戦」と厳しい言葉で中国を敵視⇒中国は「顔に泥を塗られた」と激怒。◆つまり日本は、敵国の攻撃も先制攻撃も可能な世界第3位の軍事国家になり、日本人が主役になって国土で中国と戦う覚悟を内外に示した。国際社会が驚くほどの変化だ。その直後に決まった予算内容も含め、これで南西諸島は軍事化の激流にさらされていくことになる。◆さっそく那覇駐屯地司令部や与那国島の自衛隊基地の地下化が発表された。シェルター建設に予算が付いたことも併せて、これは防衛省がここにミサイルの雨が降ると認めたも同然である。◆さらに今年、島々の港湾、空港の軍事用強化が動き出す。EABO(遠征前方基地作戦)という米軍の作戦を可能にするための整備だ。海兵隊は、中国の反撃を避けながら小編成部隊で島々を転々としてミサイルを撃つ。だから各島に軍艦が接岸できる港、戦闘機F35が離着陸できる滑走路が必要になる。ところが政府は、住民避難のための港湾整備のように説明している。これに反対すれば、離島の安全確保のためのインフラ整備を邪魔するのか？と言われかねない。◆沖縄じゅうに兵站基地が作られる。昨年、アメリカ軍の弾薬庫(嘉手納弾薬庫と辺野古弾薬庫)を自衛隊も共同使用する方針が固まったが、まだ足りないと、沖縄市池原の自衛隊沖縄訓練場に武器弾薬を保管する補給拠点を造る計画が発表された。

ただでさえ嘉手納弾薬庫を抱えて万が一の心配をしてきたのに、と沖縄市では反発の声が上がっている。(略)◆戦時中、火事も消せなかったバケツリレーが、いったい何の役に立ったのか？それは、国防婦人会が地域社会の非協力的な人間を炙り出すのに役立った。いったんバケツリレーに参加したら、もう竹やり訓練に移行する流れには逆らえない。銃後の社会を乱す「非国民」は誰か。不安と欠乏は、憎悪を注ぎ込む相手を求める。「あなたのような人がいるから負けるのよ！」と叩く相手を探す。避難先の本土のどこかで仮設住宅暮らしを始めてからでは遅すぎる。生まれた島で安心して子育てを続けたいと思うなら今こそ「そもそもなんで沖縄が戦場にならなければいけないの？」という問いに正面から向き合って、この流れを一緒に止めてほしい。いま必要なことはバケツリレーに参加することではなく、まだ間に合うから、と仲間を誘って「隣の国と仲良くしたい」と叫ぶこと。未来の子どもたちに渡す沖縄がどす黒い戦雲に飲み込まれそうになっていることを知らせあって、みんなで暗雲を吹き飛ばす行動力ではないだろうか。

(まとめ:M.M)

やさしく強く平和を歌う きたがわてつさんのコンサート

田中雄二

去る1月の日曜日、横浜市
JR桜木町から歩いて15分ほど
で野毛山動物園の近くにある、
野毛山キリストの教会で、きた
がわてつさんのコンサートがあ
り、行ってきました。久しぶりに
見る彼は、確かに齢を重ねたも
のではあったけれど、その声も
歌の響きも素晴らしいものでし
た。敷地には幼稚園も併設さ
れていて、日曜日なので子ども
の声がか聞こえないのは残念でしたが、行ってよ
かった！と思えるものでした。主催者は、神奈川
合唱団の横田静さんという方で、その挨拶から、て
つさんを迎えたコンサートはコロナで3年のブランク
があったけれど、なんと今回で16回目であるとのこと。
てつさん自身も、いくつもの持病と怪我を重ね
ながらもこの3年の間、全く歌えなかったことのつら
さに触れつつも、こうして緊急に場を作ってくれた
横田さんや関係者の方に熱いお礼の気持ちを伝えて
いました。「海のように山のように」「ローズ」「
そんな町を」などのこれまでの歌に加え、沖縄の人の
心につながる「芭蕉布」も初めて歌われました。
そして、やはり圧巻は、日本国憲法前文で、バック
に憲法9条の大きなタペストリーがかけられたその
前で「やさしく、つよく、そして高らかに」歌われ
ました。私は、てつさんの歌を生で聴くの3回目で
したがこれほどにやさしく柔らかな方で、人と人をつ
なげる歌を目指し、豊かな感性を持っている方とい
うことを、感動の中で初めて知りました。素晴らしい
コンサートでした。



きたがわてつさん

帰路、私の中では何ができるのか、心の奥底で自
身に問う声か。

キューバを旅して 文と写真・中川洋子



キューバキヌバネドリ

2019年3月キューバに探鳥旅行に行きました。アメリカがキューバとの渡航を制限したので、メキシコ経由で憧れのキューバに辿り着きました。キューバの首都ハバナに降り立つと、こじんまりした空港で長時間待たされましたが、暑い太陽と青く輝く海、そして、鳥たちの囀りが私を迎えてくれました。

宿泊した所は自然に囲まれているので、珍しい鳥たちが自由に飛び交っていました。キューバでしか見ることのできない鳥があちこちで出

現してシャッターを切るのが忙しかかったです。

キューバは自然が豊かで、農業は農薬を使用しないで営んでいます。農家の畑のそばで鳥を観察させてもらいました。朝早く出現する鳥、林の中、小川のそば、崖のそば等、地域によって出現する鳥をカメラに収めることができました。

私は原住民の住居等を再現した観光地で、「原住民で生き残った人たちはいるのか」とガイドに尋ねた所、皆、虐殺されたと教えてくれました。ところが、日本に帰ってから少数の原住民が生き残って自然と共に生活していることを知り嬉しかったです。日本の女優さんが原住民に治療をしてもらい元気を回復していたので、驚きました。

キューバの住民の生活は経済的には十分ではありませんが、学校や病院は無償になっています。小学校の近くで鳥を見ていると、学校は粗末な建物でしたが、子どもたちがグラウンドで伸び伸び遊んでいました。数人の子どもたちが、ガイドの説明と一緒に聞いていました。言葉は通じなかったが、木の中から顔を出したキツツキの名前を教えてくださいました。大都市以外は、水道がなくタンクローリーで水を各地に運んでいました。電気の供給も十分ではありませんでしたが、自然栽培の野菜や果物、魚介類が豊富で色々な食事を楽しむことができました。観光地はキューバ島の周りに点在していて、たくさんの観光客が訪れていました。

アメリカの鼻先でキューバ革命を成し遂げたチェゲバラとカストロは、キューバの誇りとして今でも崇拜されていました。キューバ革命50周年『モーターサイクルダイアリーズ』の映像を何度も繰り返し見たことを思い出しました。

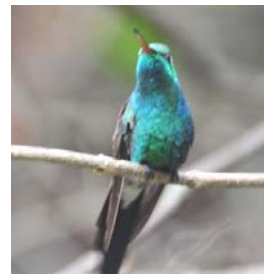


キューバコビトドリ

ゲバラがアルゼンチンから友達とモーターサイクルに乗って南アメリカを縦断したことで、キューバ革命を成し遂げることに繋がったが、この道中でチェゲバラがハンセン病患者の施設を訪れ患者の治療をしたことが強く心に残りました。弱者の側に立ってキューバ革命を成し遂げたことは、今でも多くの人の心に刻まれています。

キューバでは、たくさんの鳥が住んでいますが、ハチドリは3種類しかいません。その代わりに、小さなキューバコビトドリが棲息しています。

ハチドリ3種類のエメラルドハチドリ、ノアカハチドリ、マメハチドリ、とキューバコビトドリ、キューバキヌバネドリの写真と先住民族の村の復元の一部を掲載します。



エメラルドハチドリ



ノアカハチドリ



マメハチドリ



先住民族の生活様子の復元

枯竹で竹炭を作る 文と写真・石川旺



荒れた竹藪を整備し、切り出した枯竹で竹炭を作り、その竹炭で弱った土壌の生命力を回復させる。そんなボランティア活動を、神奈川県湘南地区で展開するグループの大規模な竹炭制作を間近で見た。

無煙炭化器というごく簡単な構造の金属枠に枯れた竹を重ね入れて燃やすと煙は出ずに勢いよく炎が立ち上り、約30分で見事に炭になる。これを繰り返して半日で約500リットルの竹炭を作った。

翌日近隣の里山や人里近くで根回りを踏まれて弱った樹木の周辺に竹炭を埋めに行った。これで保水力が上がり、土壌の本来の生命力が回復するのだという。脇で見ているながら心が湧きたつ思いだった。

整備された竹林、春には柔らかく香り高い筍が数多く出るに違いない。



『死刑』について若干の考察

「憎しみを越えた何か」で社会と繋がる生き方を選びたい
津田 孝

日本では、死刑制度を肯定する人が81%、否定する人が9%、分からない・一概に言えない人が10%である(2019年調査)。死刑制度を廃止した国では、死刑制度存置国より凶悪犯罪が多いという統計はない。

一般論として、個人が暴力を振るえば普通は否定される。国家が恣意的に誰かを逮捕拘禁すれば、国家の暴力として非難批判を受ける。現在ウクライナとロシアの間で戦争が起きているが、誰もが一刻も早くこの戦争を終わらせなくちゃならないと思っているだろう。

この、暴力の究極形が殺人だとすると、国家暴力の究極形は死刑であり、国家間暴力の究極形は戦争である。ところが、日本では、殺人や戦争を否定する一方、冒頭見たように八割の人が死刑を肯定する。死刑が国家による殺人であることは誰も否定できない。なぜ国家による殺人である死刑は肯定されるのか。

論理ではなく感情の問題として考えてみよう。殺人の被害者の家族は、加害者は愛する人を殺したのだから、彼も殺されて当然だと考える。加害者が死んでも被害者は生き返らないが、そのままでは怒りや憎しみが収まらず、それは加害者の死を以て報いられる。つまり、報復によって被害者は癒やされるのである。自分で報復は出来ないから、代わって国家に加害者を殺して貰うということである。

だが、この報復感情はある意味ではまことに尤もであって、それは古代から現代に至る迄世界中至る所に普遍的に見られる。勿論、被害者の家族の中には加害者の死を望まない人々も大勢いるのもまた事実であるが。

さて、私はこの年末に、平野啓一郎の『死刑について』を読んで深く動かされた。後書きによると、2019年の大阪弁護士会主催の講演記録と、日弁連主催のシンポジウムでの発言に大幅に加筆・修正したものだそうである。

平野は元々は消極的な死刑肯定論者であったが、殺害事件の被害者の家族会などにも参加し、その人達の意見を聞いた経験に基づいて小説『決壊』を書くうちに死刑というものが嫌になったそうである。

そこで私も『決壊』を読んでみた。ネット時代という、それまで我々が経験してこなかった現代の凄惨な殺人事件を被害者の目で描いた衝撃的な作品である。危うく冤罪で犯人にされかかった主人公の心が痛々しい。

また、この制度の存廃について考える時に、ヴィクトル=ユゴーの小説『死刑囚最後の日』からも影響を受けたようだ。ひたすら死刑制度の残酷さと死刑囚への憐憫が強調されていて、今日の死刑存廃論議からは受け止めがたい。だが、その点にこそこの小説のラディカルな点があるという。私も読んだが、時代背景や処刑制度がまるで違い、ストンと腑に落ちなかった。

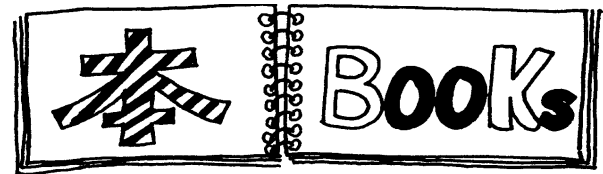
ところで、平野に言わしめると、死刑や報復を望む結果「被害者と社会の接点はただ憎しみという一点だけになり」「被害者は『憎む人』として本質規定され」「その感情にだけ拘束され」て社会で生きなくてはならな

くなるという。同時に平野は、日本の文化には報復を正当化する「勸善懲悪」の伝統があると指摘。TV・芝居など多くの例を挙げる。

「憎む人」という生き方は果たして幸福な生き方なのであろうか。憎む連鎖を断ち切るためにはそこを超える何かが必要だ。それが何かはそれこそ人様々で一概には言えない。しかし、憎しみの一点で社会と繋がるのではなく、「憎しみを越えた何か」で社会と繋がる生き方。それは必然的に、相手(加害者)の死を望むことではなくなる。憎まないことは難しいが私はそういう生き方を選びたい。

なお、最近TVでノルウェーの刑務所特集番組を見た。非常な「好待遇」で快適らしい。受刑者を社会で受け入れることが前提で、出所後の再犯率も低下したという。だが、実際は余りの「好待遇」に賛否両論あると言う。

2月のある日、木の上にスズメが集まって「平和っていいね」と語りあっているように感じた。
(撮影・樋口みな子)



足尾の栄枯盛衰をスケッチと文で記す

令和・足尾三十六景

スケッチ、日本文とエスペラント文 堀泰雄 ホリゾン
出版 880円



2020年の初めごろから、友人に誘われて栃木県日光市にある足尾に通い始めた。ここは、明治から大正にかけては、アジア一の銅山で、日露戦争や太平洋戦争の兵器や弾丸などになって、日本の富国強兵政策を支えた。

足尾というと、渡良瀬川の公害が有名で、田中正蔵や農民の蜂起、谷中村を水没させて作った遊水地などに焦点が当たるが、足尾町自身は、大繁栄を遂げ、最新鋭の機械が導入され、東京からは新しい文明やモードがすぐにもたらされていた。しかし鉦山は、いつかは閉鎖の運命になる。それが来たのが1973年のことである。最盛期には4万人もいた人口は今や1600人である。

そして、後に残されたのは、いわゆる近代化遺産(銅山に関する施設機械、工場など)、廃屋になった長屋群、全くなくなっていった山の緑の復興など、歴史、地理、民俗、自然などあらゆる分野にわたる興味をひくものばかりである。そして、そこに住む老人たちと交流すると、温かい人間味に感動もする。そんなところをふらふら歩き、写真に撮って家に帰ってくるとその日の印象を集めた絵を描いてみたくなる。

そんな風にして、まず10景、次に10景と描いてゆくうちに36景色になった。更に、坑夫たちが眠る龍蔵寺ある女の子、山下りんちゃんの石仏様式の墓の可憐な姿に魅せられて、この姿なども描いてみた。

そうか、2023年は、足尾銅山閉山50周年だ。それを機に、これらのスケッチで本を作ってみるか、こんな気持ちで作ったのがこの本である。(堀 泰雄)
購入、お問い合わせは堀さんへ027(253)2524に。
朝日新聞、東京新聞などで紹介されました。



メディアが取り上げない テーマを9年間追及

自民党の統一教会汚染
追跡3000日

鈴木エイト著 小学館 1,760円

献金問題、宗教2世の苦悩、そして政治家との癒着に密着した本書は、鈴木エイトさんが長い年月をかけた渾身の取材記録です。

統一教会と自民党議員との接点を炙り出し、両者が深くつながっていたことに怒りがわきます。

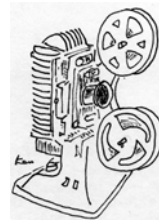
「私は安倍が暗殺される半年前、本書の基となる原稿において、こう書いた。統一教会の生命線は安倍晋三との関係性に委ねられている。(略)政界を汚染する『歪な共存関係』を白日の下に晒し、国民の監視下に置くこと。それ以外にこの穢れた関係を取り除くことはできない」(本書p296)と書き、エピローグでも「自戒を込めて書くが、本来であればこのような事件が起こる前に、『統一教会の悪質さ』…等を可視化し提示しなければならなかった責任は、メディアを含む我々社会の側にもある」とあります。

特に2世の学生が関連する「UNITE(ユナイト)」問題や沖縄における活動の具体的な記録を詳しく取材していて、新聞では知り得ないことでした。本書では統一教会の政界工作、自民党への関係構築の実態が克明に記されています。SEALDsに対抗して、安倍政権を支持した「ユナイト」は、少し話題になったことがあったと思い出しましたが、2世信者だとは知りませんでした。

「選挙に勝つことや、保身に走り『使わなくては損』とばかりに安易に教団やそのフロント組織と関係を持ちそのような反社会的なカルト団体を積極的に受け入れ、バーター取引をしてきた政治家たちの道義的責任は限りなく重い」(P.304)。「信者の人権を無視してその人生を奪う教団も問題だが、その信者を私利私欲のために使い捨てにする政治家は更に問題視されるべきだ。私がカルト団体による人権侵害だけでなく、政治家の問題を追及するモチベーションは此処にある」とエイト氏は書きます。

これほどの事実が、元総理の死までマスメディアに取り上げられることがなかった現実に暗澹としました。政治に関心のない人が増えて投票率が上がりません。こんないいかげんな政治はたくさんです。

巻末に記された統一教会関連団体と関係があった現職国会議員168人の列記は、エイト氏の調査の賜物で圧巻！(樋口みな子)



映画の誕生、成長、死、 そして再生を祝う物語

エンドロールのつづき

パン・ナリン監督



パン・ナリン監督自身の実話を基にした半自伝的な作品。映画館で映画をみる幸せに改めて気づかせてくれる至高の110分です。

9歳のサマイ(バヴァン・ラバリ)はインドの田舎町で、学校に通いながら、父のチャイ店を手伝っている。厳格な父は、映画を低劣なものだと思っているが、信仰するカーリー女神の映画は特別と、家族で街に映画を観に行くことに。サマイは、後方からスクリーンへと延びる一筋の光に感動する。映画の魅力にとりこになり、再び映画館に忍び込むがチケット代が払えずつまみ出されてしまう。それを見た映写技師のファザルは、料理上手なサマイの母が作る弁当と引換えに、映写室から映画を見せることを提案する。それがスライド機の自作に始まり映写機まで自作してしまう展開になるのです。光の持つ特性に興味を持ち、全てを学びたいという思いから行動するサマイ。仲間たちを巻き込みながら、創意工夫をこらし“映画”に近づこうとする熱意は、やがて母や担任の先生を味方につけ、父の心をも動かすのです。

世界初の映画といわれている、リュミエール兄弟の『ラ・シオタ駅への列車の到着』の蒸気機関車が駅に到着するシーンのオマージュは、チャララ駅に列車が到着する場面など随所にあります。サマイが映写室の小窓から映画を観て、映画フィルムを伸ばしてみつめるシーン、子どもたちが西部劇映画を観て真似るシーンなどは『ニュー・シネマパラダイス』を彷彿させました。

サマイは地元に戻ると様々な絵柄のマッチの空箱を拾い集め、友人達にそれを組み合わせながら1つの物語を即興で語り、映画の面白さを教え、サマイと友人たちに友情が芽生えていきます。太陽の自然光を1点に集めスライド機に通し、フィルムの切れ端で作ったスライドショーを成功させます。本作は自然の美しい彩りと素朴な村の淡い彩りなどが活かされています。物が溢れている日本では考えもつかない方法に驚き、感動しました。実際に主演のサマイを演じたラバリは9歳で初めて映画を観て、本作がノミネートされるまでアカデミー賞も知らなかったという。何もない田舎で、嬉々として学び、遊ぶ子どもたちの自然な姿は確固たるバックグラウンドがあるからこそですね。

デジタル上映が主流になり、廃棄される映写機やフィルムの行く末を描いたクライマックス。色どりの物語が焼き付いたフィルムが生まれ変わって再び世界を彩ります。サマイの名はヒンディー語で「時間」を意味するそうです。時間と光が融合し、サマイの未来を祝福しているようでした。

(樋口みな子)

地道で誠実な取材が
#MeTooにつながった

『SHE SAID シー・セッド
その名を暴け』
樋口みな子

札幌映画サー
クル会報
シネアスト
2023年3月号
掲載

2017年にニューヨーク・タイムズ紙が暴いた映画プロデューサー、ハーヴェイ・ワインスタインの30年に及ぶ性暴力事件。世界的に巻き起こる#MeToo運動のきっかけとなりました。二人の女性記者ミーガン・トゥーイーとジョディ・カンターの誠実な取材に共感し、少しも誇張がない地道さに、調査報道の神髄をみた思いがしました。支えるのは同僚たちと彼女たちの家族です。ジョディは二人の娘、ミーガンも出産したばかりの娘がいます。自分の娘たちの人生にこのようなむごいことが起きてほしくないという祈りを込めて記事を書いたと知りました。

取材過程がどんなものだったのか知りたくて、二人の共著でピューリッツァー賞を受賞した原作『その名を暴け』も読みました。二人は丹念に証言を集め、裏の取れない内容は載せないという矜持を貫き、映画ではワインスタイン本人を直接的に見せることもしません。彼の性暴力に関する取材の行く手には、被害者を縛る秘密保持契約や敏腕弁護士といった障害が立ちはだかるのです。権力と金。政治の癒着。ワインスタインは、有名な女優や管理職になりたい会社の従業員らに、性暴力をふるい続けました。彼女らが、絶対口外しないように莫大な示談金を提示し、被害者の口封じをしたのです。それだけではありません。フェミニストを標榜する弁護士も加担していました。日本も同じだと思いました。



被害女性の口は重く、決定的な証言がなかなか得られません。二人の取材に少しずつ被害者たちが心を開き事件の核心に迫っていきます。

逃げるに逃げられなかった被害女性たちが、誰にも語りことができずにきた、性暴力の悪辣さに怒りがこみ上げます。

原作には性暴力の実態が詳細に記されています。映画の脚本はレベッカ・レンキエヴィッチが二人の原作者と協力して3年かけたそうです。マリア・シュラーダー監督は「ジャーナリストたちと自分に起きたことを語るために立ち上がったすべての女性についての映画だ」と語っています。「『彼女は語った』というタイトルには声を上げた女性だけでなく、声を上げられなかった女性たちへの思いを込めた」と言います。取材と裏づけを基に報道の本懐を貫いた姿勢と、声を奪われた被害者の痛みと勇気に連帯した思慮深さに共感しました。映画は被害者の証言を丁寧に「裏取り」までしていること。30年に及ぶ不正行為の疑惑を検証しました。ミーガンたちは、最後まで被害者たちに寄り添い「真実のために力を合わせれば、今後、ほかの人が傷つくのは防げるかもしれない」と説得し続け

たのです。



『大統領の陰謀』(1976)や『スポットライト 世紀のスcoop』(2016)などの優れた事件報道映画と違うのは、ワインスタイン一人の

問題にしていないこと。この調査報道でハリウッド映画界のセクハラ風習や、権力を握った人を守る法制度の欠陥も追求していることで#MeToo運動につながったことが素晴らしいと思います。

当事者のうちグウィネス・パルトロウは名前しか出てきませんが、アシュレイ・ジャッドは本人役で出演していて、ドラマに説得力を与えています。映画では描かれませんが、ワインスタインの記事が出てから、「彼女は慕われ、讃えられ、いろいろな賞を受賞し、母校のハーバード大学ケネディ・スクールで教鞭をとることになり、“タイムズ・アップ”という団体の理事にもなった。この団体はワインスタインのスキャンダルが公表されたことがきっかけに立ち上がった、安全で公平な職場の整備を推進する組織だ」と原作にありました。ミーガンとジョディは、真実を語ることに物事を変える力があると証明したのです。ミーガンは幼い娘を育てながらの取材。産後うつと闘いながら調査したことも描かれます。

ワインスタインは2020年3月、23年の禁錮刑を言い渡されました。

権力におもねらず、監視し批判するのがジャーナリズムの役割。日本のジャーナリズムはここまで徹底的に調査報道をしているだろうかと考えさせられました。

ジャーナリストの伊藤詩織さんは8年前、元TBS記者の山口敬之さんとの食事会で酒に酔って意識を失い、性的暴行を受けたとして賠償を求めました。伊藤さんは2017年、検察審査会に不服を申し立てるとともに、顔や名前を明らかにして記者会見を開きました。その頃とワインスタインの記事が同時期だったことにも驚きました。伊藤さんの会見は「#MeToo」の動きが世界で広がる中で注目を集め、日本での性被害をめぐる議論のきっかけにもなりました。元自衛隊員の五ノ井里奈さんも複数の隊員から性暴力を受けたと訴え、ようやく隊員9人の処分が発表されました。

私も性被害ではありませんが、「原発に反対する山女」というタイトルの記事を書かれたときに「原発がなかったら電気はどうするんだ！」とか無言電話が1カ月も続き、庭のプランターが自宅を留守にしていた時に全部ひっくり返されたこともあります。私が男だったら、そんな嫌がらせを受けたでしょうか。



逃げ出したい、でも諦めたくない

ケイコ 目を澄ませて

小笠原恵子原案 三宅唱監督 三宅唱、酒井雅秋脚本

プロボクサーとしてリングに立った小笠原恵子さんの自伝を原案に、主演に岸井ゆきのを迎えて16ミリフィルムで撮影した人間ドラマ。

何かを書き付ける音が聞こえてくるところから始まりフェードインしてノートにペンを走らせるケイコの横顔のアップ、次いで机に向かってケイコの全身像に移ります。

ケイコはろう者だけど、そこを主題にしてはいない。三宅唱監督自らも手話を学び、ケイコとボクシングの練習もしたという。不安や迷い、喜びや情熱などのさまざまな感情に揺れ動くケイコが、等身大の女性として描かれて心を奪われました。小柄な岸井のひたむきさに私もいつしか同化して、「ガンバレ！」と声援を送る。試合でパンチを受けて目のまわりが充血して、応援していた母は心配でならない。翌日、取材を受けた会長(三浦友和)は「ケイコは目がいいんです。人間としての器量があるんですよ。素直で率直で」とケイコを誉めます。

ゆっくりと姿を変えて行く東京の下町の光景が映し出されます。小さくて古い荒川のジムの会長に全幅の信頼を置いているのが伝わってきます。2人の間に流れる信頼関係は、決して言葉で確かめ合うものではなく、荒川の架橋の下で、ふたり並んでシャドウボクシングをするシーンなどに現れています。ひとりの女性としてケイコが生きていく姿を、岸井は全身で演じ、彼女がこれまで出演した作品とはまったく異なる表情を見せています。ボクシングに命をかけているけれど、怖いと感じ、距離を起きたいと悩む瞬間がある。そうした細やかな感情の機微を見事に表現しています。

ジムは会長の体の衰えが顕著になったことで閉じられてしまいましたが、この場所もいつか再開発の対象になっていくのでしょうか。

人間がひとりひとり変わっていくように、町も徐々に姿を変えて行きます。その光景を忘れず記憶しておくかのように、ケイコがフレームから姿を消したあとも、エンドロールに重なって河川敷から見える電車や街の灯り、複雑に交差した高速道路といった風景が映し出されます。それらのショットがいつまでも続くようにと思わず願ってしまいました。

三浦友和の包容力豊かないぶし銀の演技も心に残りました。(樋口みな子)



ラストまで見逃せない

非常宣言

ハン・ジェリム監督・脚本

飛行機内で発生したバイオテロの恐怖を描くパニック・スリラーです。

高度28,000フィート上空で、感染力と致死性が高

い猛毒ウイルス、そして狂気の無差別テロにさらされながら、気丈に自身の務めを続ける人々と、地上でなんとか乗客を無事生還させるため奔走する人々の姿が、緊張感あふれる中、ダイナミックかつ繊細に描かれ、息つく間もありません。

まるで飛行機に同乗しているような緊張感を覚えます。飛行機が操縦困難となって360度回転する場面など迫力あるシーンはトム・ハンクスの「トップガン マーヴェリック」さながら。地上での交通事故シーンなども、車の中にカメラを置いたままワンカットで撮っていて驚かされます。

ハン・ジェリム監督は本作を約10年前から企画し世界中で新型コロナウイルスが蔓延する前にクランクインしたということですが、偶然にもコロナ時代を予言したかのような作品です。実際にコロナ感染者が出た豪華客船の受け入れを拒否する国が出たことを思い出させます。

娘とハワイへ向かうため搭乗手続きを終えたパク・ジェヒョク(イ・ビョンホン)は、見知らぬ若い男ジンソク(イム・シワン)に絡まれ不快な思いをしますが、同じ便に男が乗り込んでいるのを認め、妙な胸騒ぎを覚えます。その少し前、刑事のク・イノ(ソン・ガンホ)は、職場から呼び出しを受け、妻との海外旅行を予定していたが、キャンセルをせざるをえず、妻だけが空港に向かうことになりました。KI501便がホノルル行きだと聞き、イノは愕然とします。インターネット上で飛行機へのバイオテロの犯行予告がアップされ、捜査を開始します。

運輸大臣のスッキ(チョン・ドヨン)はすぐさま対策本部を立ち上げます。緊急着陸のために彼ら、彼女たちは、どのようにこの事態に臨んだのか、是非、映画館で目撃していただきたい。

国内外に交渉を開始しますが、どの国も緊急着陸を許可しようとしません。日本は少しの同情心もなく受け入れを拒否します。自衛隊機が韓国機に追撃するシーンは映画とは言え、なんだか悲しくなりました。

飛行機が操縦不能になって急降下します。ジェヒョクはかつて事故を起こし、飛行機恐怖症になったが、実は優秀なパイロットだったことが同僚から明かされます。「1000回も考えつくした」と自分の判断は正しかったと言い、同僚だった副機長も認めます。彼が渾身の力を振り絞って操縦桿を握るのです。

監督はこの映画でリアリティの表現に注力したと語っています。実際の飛行機の機体を活用したセット、コックピットのディテールにもこだわり、すべてのスタッフと俳優たちが最善を尽くしたこと、現実的な災害や苦難を前に立ち向かう人々の感情を盛り込むことに最も心血を注いだと言い、こんな事態になったらどうしたらいいのかと考えさせる作品になっています。

韓国映画のすごさを見せつけられました。ハリウッド映画より断然、迫力があって日本はまだまだだと思いました。映画を支える環境が整っていることや観客が支持していることも大きいと思います。

(樋口みな子)

「銀河通信」35周年を祝う会

ご参加の連絡とメッセージをお寄せください



「銀河通信」35周年をお祝いして

祝う会・実行委員長 小野有五

樋口みな子さんの個人新聞「銀河通信」が発行されて、35周年目を迎えます。

忙しいなか山に登り、さまざまな市民活動を行い、また合間にはたくさんの映画を見、本を読んで、それらを紹介していただきました。私たち読者は、本当に多くのものをそこから得てきたと思います。

みな子さんへの感謝を込めて、またみな子さんを陰で支えてこられた澄生

さんと息子さんへの感謝もこめて、ささやかですが、お祝いの会を企画しました。

つねに正義と平和を紙面で訴えてきたみな子さんですが、一昨年、カトリックの洗礼を受けられたことには驚かれた方々もいるでしょう。統一教会問題以降、すべての宗教が敵視されるような風潮がありますが、みな子さんとともに楽しく歓談しながら、一人ひとり、生きることを考え直すひと時にできたらと願っております。

日時 …2023年5月20日(土) 14:00~17:00

開場13:30

会場 …カトリックセンター(中央区北1東6)

参加費…1500円

★出欠の連絡を3月末日迄にQRコードか、
<https://x.gd/dDUQN>か、
同封のハガキにてお知らせください。



★樋口みな子さんへのお祝いメッセージもお願いします。

地下鉄東西線「バスセンター前」下車
10番出口より徒歩3分

主催/ 銀河通信」35周年を祝う会・実行委員会
お問合せ/ mail ka32847@bj9.so-net.ne.jp

07020023269 (鈴木)

あとがき

★ウクライナ侵攻からちょうど1年がたちました。戦火はとどまるどころを知らず、いつ終わるのか想像もつきません。今朝(2月24日)の記事は「無防備だった街 武器を手にした住民」の見出しで、男性が「勝つまで自分は絶対に市民生活に戻れない」と語っています。ウクライナの多数の子どもたちが、親や故郷からも引き離され「親ロシア化」を図るために収容しているという。子どもまで戦争に巻き込むのは卑劣です。現代の話なのかと、強い怒りを覚えました。ウクライナにばかり目が行きますが、ミャンマーでは、国軍が起こしたクーデター以降、抵抗する市民への残虐行為が2年間も続いています。新聞やテレビで報じることがあまりなくて忘れられてはいないでしょうか。

★戦争に反対するデモにも参加できない我が身。何かしなければと思い、昨年10月から朝日新聞のモニターをしています。記事で分かりにくい点、もっと知りたい点、意見、要望をとあります。毎週末近くにテーマが決まるので、新聞、またはデジタル記事を読み直しています。

★敵基地攻撃能力の保有と軍事費を5年間で43兆円に増やすという政府の方針は報じられるけれど、「戦争への道」だとは新聞もテレビも伝えません。1面途中から2面の三上智恵さんの発言を是非読んでください。ウクライナ侵攻後、防衛のために「軍事費を増やすのは必要だ」と話す若者が増えたように思います。報道はもっと深掘りしてほしいです。戦争になったら、病人がいる我が家は逃げられません。

(みな子)

購読料と寄付をありがとうございます(敬称略)
1.3~2.21

高橋春枝 川原勝利 土本武司 福島清 安立尚雅
鈴木ゆかり 坂田久子 村田和代 金尾誠一
松浦幸子 太田朋子 藤田トシ子

購読料とカンパ36,000円は印刷と送料に使わせていただきます。郵便振替「銀河通信」02740-7-5653
5年間2,000円です。web読者のカンパも歓迎します。今年度分の振込用紙を同封します。振り込んだ方にも入っていましたらごめんなさい。

各地の話題など読者のみなさまの投稿をお待ちしています。1500字以内で写真もお願いします。